

★喜田貞吉（一八七二～一九三九）は、古代史・民俗学・考古学など幅広い歴史研究において著名である。しかし、その業績は今日必ずしも評価されていない。彼の個人誌『民族と歴史』は、部落問題についての先見性に富んだ「特殊部落研究号」（第2巻第1号）、古代朝鮮と日本との関係を解く「鮮満研究号」（第6巻第1号）、関東大震災直後の「日本震災史」（第10巻第4号）など、今日においてなお示唆に富む。全号を復刻し、詳細な解説を付し刊行。

喜田 貞吉 ———— 主筆

推薦 ———— 上田正昭・秋定嘉和

不二出版

奈良県部落解放研究所 ———— 編集

民族と歴史

全10巻・別冊1



● 誌名の変遷

『民族と歴史』第1巻第1号→第8巻第6号（大正8年1月→大正11年12月）
『社会史研究』第9巻第1号→第10巻第4号（大正12年1月→大正12年12月）

● 復刻版概要

A5判・上製本・クロス装・総6、524頁

● 配本（全2回）

第1回配本Ⅱ第1巻→第5巻（90,000円＋税） ———— '97年6月
第2回配本Ⅱ第6巻→第10巻＋別冊（90,000円＋税） ———— '97年11月

● 別冊

解説（朝治武・平山和彦・吉田栄治郎・のびしようじ）・総目次・索引
（別冊のみ分売可Ⅱ2,000円＋税）

● 定価

全10巻・別冊1揃価 1,800,000円＋税

喜田史学の面目が躍動する

上田 正昭・大阪女子大学学長

いわゆる国際化の前提には、民族際化が必要であり、そしてその根底には民族化が不可欠となる。世界の各地域で民族間の対立と摩擦が激化するなかで、改めて「民族とは何ぞや」が問われている。

喜田貞吉博士の学問の裾野はきわめて広い。歴史学・考古学・民俗学など、まさに学際的な研究視角を導入した先駆者のひとりである喜田貞吉であった。「古代学」という学問への先見も、喜田史学に内包されていた。喜田博士は法隆寺再建・非再建論争や古代の「帝都」史研究の雄であったばかりでなく、民族史研究がその史学の主要な眼目に存在した。

喜田史学における部落問題や民間伝承の考察も、その民族史研究とのかかわりを軽視するわけにはいかない。もつとも喜田史学の研究方法と研究内容には、制約もあり限界もあつた。しかしそのひたむきな情熱と問題解明への真摯な努力には、今もなお学ぶべきところが多い。

このたび喜田貞吉博士が主宰した雑誌『民族と歴史』、『社会史研究』の全号が復刻されるという。現在ではなかなか入手したい全号の復刻による刊行に、喜田史学の面目が躍動する。今後の論究に寄与する企画といつてよい。その復刻を前提とする研究の前進を期待する。

喜田民衆史観の再評価

秋定 嘉和・池坊短期大学教授

喜田貞吉の社会史研究は、当時の社会経済史研究とは明確な問題意識の区分のうえで出発していた。それは当時の代表的な経済史学者本庄栄治郎との論争

に端的に表現されていた。本庄ら隆盛をみた経済史家の問題意識と異なり人間の多彩な営為を社会史のなかでおりこむこと、したがって社会経済史でなく、社会史でなければならなかったのである。

一方喜田の問題意識は、当時の実証史観にもむけられていた。その範囲は、天皇制国家の成立神話からその形成に及ぶ「日・鮮同祖論」の見解を主張していた。「南・北朝正閏論」に対する骨太の言及もその背景には、この理解があつたからであろう。

さらに喜田は日本民族の社会的底辺の歴史的交代性にも卓見をよせ、諸階層の身分的交代を民衆的立場から説いたのである。古代天皇にはじまり藤原氏の興隆と没落、武士の勃興と資本への交代が描かれていた。

このなかで喜田は人生にとって第二の大きなテーマである被差別身分の問題に関心をよせていくのである。ちようど、柳田国男の発言が終つてしまうのを受けつぐかたちで、『民族と歴史』、『社会史研究』が登場するのである。その見解は先にみた武士の発生と没落による動態的变化と類似性を、近代日本にまであてはめての叙述であった。被差別民は古代的始源性をもつとはいえ、その実態は各時代ごとに変化し、それぞれの時代的特徴をもつこと。今日の差別への残存には徳川時代の法制的・社会組織上の法規範と社会的疎外と差別があること。近代天皇制のものとの法制的差別の可能性がなくなつたとき社会的差別の解消の可能性があること。それは政府と国民の自覚的な差別意識の打破と政策によるが、部落民自らの解放運動が必要であることを訴えたのである。

喜田は改善運動や融和運動に大きな期待をよせ協力していた。それは、いわゆる部落問題の「ブルジョア民衆主義」的な解放ともいふべき路線のなかにあつた。初期の水平社や戦時下の水平社とは交流をおこなっていたことは注目されるところである。

いわゆる「ボル派」的立場の人々からは反対されていたのであるが、今日、水平社運動や部落史の時期区分を新しい枠組みで見直そうという気運が高まっているとき、喜田の業績はその手がかりになると思われる。

『民族と歴史』内容見本

上右——第2巻第1号(大正8年7月)
上左——第3巻第1号(大正9年1月)

下右——第6巻第1号(大正10年7月)
下左——第10巻第4号(大正12年12月)

縮小しています。

特殊部落研究號

(民族と歴史 第二巻第一號)

(大正八年七月一日發行)

「特殊部落研究號」發刊の辭

特殊部落研究號は何か爲に發刊せらるゝか。余輩が僅に同好諸民に向つて、我が特殊民に関する報告を求むべく送致せる依頼書は、ほゞ其趣意を述べ盡せりと思ふが故に、先づ左に之を掲載すべし。

特殊部落の解放に就きて敬告

拜啓。益御多謝奉復候。さて小生幾多日本歴史地理學會の經營に參與仕り、雜誌『歴史地理』誌上に於て、廣く斯學に關する研究を發表致し來り居り候處、近時特に我が日本民族を研究して、廣く其の知識を普及せしむるの必要を感じ、本年一月以來、單獨に『民族と歴史』と題する月刊雜誌を發行仕り候へ、専ら此の方面の研究と知識の普及とに従事致し居り候處は、或は既に御聞及びの事かと存じ候。

然るに廣く日本民族と申し候中にも、其の數無慮百二十萬にも達する特殊の一大部族有之、彼等は同じく陛下の赤子にてありながら、一般社會より疎外隔離せられ、最も氣の毒なる状態の下に、

民族と歴史 第二巻第一號 特殊部落研究號發刊の辭(喜田)

筆主吉貞田喜士博學文

史歴と族民

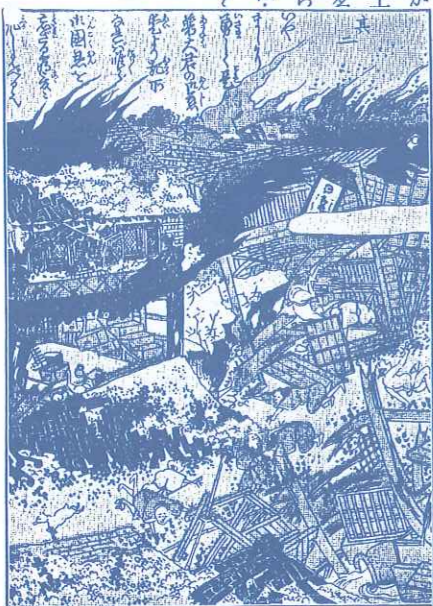
號一第卷六第
行發日一月七年十正大

目 要	目 要
朝鮮の古蹟調査……文喜博士 喜田 貞吉	朝鮮の古蹟調査……文喜博士 喜田 貞吉
吐魯番の木乃伊と朝鮮風俗……文喜博士 濱田 耕作	吐魯番の木乃伊と朝鮮風俗……文喜博士 濱田 耕作
朝鮮人は同化すべきや……文喜博士 八木 典三郎	朝鮮人は同化すべきや……文喜博士 八木 典三郎
朝鮮の在家人……文喜博士 今 西 周行	朝鮮の在家人……文喜博士 今 西 周行
朝鮮語研究の沿革……文喜博士 岩 橋 小彌太	朝鮮語研究の沿革……文喜博士 岩 橋 小彌太
古朝鮮の研究に就て……文喜博士 橋 本 勝生	古朝鮮の研究に就て……文喜博士 橋 本 勝生
女真種族の同源傳說……文喜博士 内藤 虎次郎	女真種族の同源傳說……文喜博士 内藤 虎次郎
南滿洲の重要なる古蹟……文喜博士 濱田 耕作	南滿洲の重要なる古蹟……文喜博士 濱田 耕作
滿洲考古旅行記……文喜博士 大野 雲外	滿洲考古旅行記……文喜博士 大野 雲外
支那民族の國民性……文喜博士 寄 野 好實	支那民族の國民性……文喜博士 寄 野 好實
奉天の二日……文喜博士 上 田 恭輔	奉天の二日……文喜博士 上 田 恭輔
支那の歩歩十編、餘白録五編……文喜博士 橋 本 勝生	支那の歩歩十編、餘白録五編……文喜博士 橋 本 勝生
庚申鮮滿旅行日記……文喜博士 喜田 貞吉	庚申鮮滿旅行日記……文喜博士 喜田 貞吉



日本震災史に就いて

人事の複雑にして運命の測られざる、古今共にその嘆を同じうする所、況や天變地妖をや。輒近學術の進歩は幾分か之を豫防するの域に進みたるが如しと雖も、その尙未だなるは這次の震災に於て立證せられたり。地震と火災との併發に就ては既に早く一部の識者間に論ぜられたれども、斯



災震大政安
載所志聞見政安

① 更生

○ 原本——昭和10年3月→同16年8月／全40号
○ 概要——全7巻・別冊1/A5判・上製・函入・総2,600頁
○ 別冊——解題・総目次・索引(別冊のみ分売可1,000円+税)
○ 解題——藤野 豊(日本近現代史研究者) ○ 定価——揃60,000円+税

② 警鐘

○ 原本——大正9年9月→大正11年8月／全19号(第2巻第1号は欠号)
○ 概要——B5判・上製・函入・総572頁
○ 解題——松尾尊允(京都橘女子大学教授)
○ 発行——奈良県磯城郡大福村 三協社 ○ 定価——15,000円+税

③ 初期水平運動資料集

○ 原本——大正11年から昭和2年にかけての全国21紙・誌を収録
○ 概要——全5巻・別冊1/A5・B5・A3判・上製・函入・総2,042頁
○ 別冊——解題・総目次・索引(別冊のみ分売可1,000円+税)
○ 解題——藤野 豊 ○ 定価——揃85,000円+税

④ 愛国新聞

○ 原本——大正12年5月→昭和2年3月
『三重水平新聞』全2号
『愛国新聞』・改題『三重農民新聞』全47号(第31・33・36・44号は欠号)
○ 概要——B4判・上製・函入・総314頁
○ 解題——黒川みどり(静岡大学助教授)
○ 発行——三重県松阪 愛国新聞社 ○ 定価——18,000円+税

⑤ ワシラノシンブン

○ 原本——大正13年7月→大正14年11月
『ワシラノシンブン』・改題『解放新聞』全30号
○ 概要——B4判・上製・函入・総246頁
○ 解題——園部裕之(日本近現代史研究者)
○ 発行——大阪府南河内 ワシラノシンブン社 ○ 定価——18,000円+税

創立期水平社運動資料

○ 原本——『水平社一件記録』『水平運動二関スル書類』『水平一件』
○ 概要——全4巻・別冊1/B5判・上製・総2,016頁
○ 解題——(仮称)水平社歴史館「建設推進委員会編・解説」
○ 別冊——所収資料目次・解説 ○ 定価——揃70,000円+税

○ 弊社は注文制です。
お近くの書店へご注文ください。
○ 本カタログ中の表示価格は、
全て消費税を含んでおりません。

不二出版

〒113 東京都文京区向丘 1-1-11
TEL 03-3811-4433
FAX 03-3811-4464
振替 00160194084